（別　紙）　　作成日　令和　5年　3月　22日

1　自己評価及び外部評価票

【　事業所概要（事業所記入）　】

事業所番号	2090500041		
法人名	特定非営利活動法人　心		
事業所名	グループホーム　げんき		
所在地	飯田市座光寺3601-12		
自己評価作成日	令和4年12月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2090500048-00&ServiceCd=320&Type=search

【　評価機関概要（評価機関記入）　】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉総合評価機構　長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和5年3月17日

【　事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）　】

○　元善光寺門前という恵まれた地域の中の一員として、入居者様が家庭的な生活を送ることを大切にしています。
○　特に口腔ケアや日々の体操などに力を入れて、健康で安全な食事をとることができるように働きかけています。
○　気の合う入居者様同士が団らんできる場所を提供させていただき、皆様が苦楽を分かち合えできる日常を送れるように支援しています。

【　外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）　】

令和3年度中に外部評価を予定していたが、コロナ禍のため延期となり、そのさ中グループホームの利用者や職員に感染者が出てきたので訪問調査がぎりぎりの時期となってしまった。訪問調査当日、事務室で管理者と話し合っている最中にも利用者と職員の楽しそうな笑い声や歌声、話し声が聞こえ、このグループホームがあの苦しいコロナ感染を耐えてきたのかと、感慨を覚えた。
また、この1年間に6人もの老衰による看取りをしてきたと知って、管理者を始め、職員の方々の努力とバイタリティーに感心した。職員との聞き取りの中でも、このグループホームの「共に　笑い、楽しみ、悲しみ、生きる」という理念が、着実に実践されているのだと知った。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
		○	③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

グループホーム　げんき
（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先の、誰もが目にすることのできる場所に理念を掲げ、職員や訪れたお客様にもわかるようにしています。そして、職員は理念に沿った生活が日々送れるように努めています。	同一法人のグループホームと同様に「共に笑い、楽しみ、悲しみ、生きる」という理念を掲げている。利用者と会話したり、飲食したりして一緒に行動することを大切にし、利用者の最期まで看取りすることを目標としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前までは、地域の各行事等に参加していましたが、感染予防のため、外出することや交流する機会が少なくなりました。しかし、グループホーム前は元善光寺の地域の方や参拝者が多く通るので、挨拶を交わしたりしています。	コロナ禍のため、地域の元善光寺や麻績神社お祭りなどが中止や延期になって、これまでのように参加できなくなった。しかし、これまでの地域との付き合いを大切にしてきたお陰で、野菜などの差し入れや雪かきの援助などがあり、結びつきが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで行われてきた実習生の受け入れ等はコロナ禍のため、中止となりましたが、来年度からボランティアの受け入れ等から再開できる見込みです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に、コロナ対策についての助言や、他の感染症等の注意事項の提案をいただき、参考にしてきました。	５月に第１回の運営推進会議を開くことができたが、コロナ禍のため、第２回以降は、書面での報告、電話での意見聴取という形式で行ってきた。その中で、ヒヤリハットの事例についての助言や、コロナ感染拡大の際に多くの助言をいただいてきた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との各会議は中止となっていますが、必要事項については直接電話で連絡し、サービス向上に取り組んでいます。	７月末に、利用者全員、職員９人のコロナ感染によるクラスターが発生し、保健所の指導の下、かかりつけ医とも連携して対策に当たってきた。法人全体での対応もあり、８月には無事に治めることができた。この間を通じて、市から防護服などの支援を受けてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在も拘束をしない介護に努めています。仮に拘束が必要と認められる場合には、ご家族様と相談の上、同意書を得るようにしています。	原則、法人全体の取り組みとして、身体拘束はしない、という基本方針を貫いている。現在、帰宅願望の利用者がいるが、見守り、声かけを徹底して、玄関には鍵をかけないようにしている。	身体拘束適正化に向けた指針が作くられていない。また、身体拘束適正化委員会も組織できていないので、早急に準備していきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日常起こりうるハラスメントの言葉にも目を向け、何が虐待なのか、職員会議などで改めて検討し、防止に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で勉強会を開いたりして、理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前等に見学していただいたり、詳しく説明したりして、ご理解していただいた上で、入所していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふだんから管理者が現場に関わって、ご家族様の面会等では、話を聞いたり、相談に乗ったりして、意見や要望を聞き、運営に反映できるようにしています。	コロナ禍のため面会が制限されて、家族の要望や意見を聞く機会が少なくなっている。家族や利用者にアンケートなどを実施する方法も活用していきたい。家族からお金を預かり買い物をしたい利用者の要望などには、すぐ対応するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ふだんから管理者は職員との関わりを大事にして、その場で職員の意見や提案を聞き入れるようにしています。また、必要であれば理事長に進言するように努めています。	月１回の職員会議で、管理者の司会で運営やケアについての話し合いを行っている。時間を十分とって、職員一人ひとりに指名して、納得いくように話合いを進めている。職員は、職員会議は話しやすいと語っていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価をアンケート方式で行ってもらい、さらなる向上心を持って勤務ができるように、就業環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議や毎日の申し送りの中で、職員の介護力の向上につながるような内容について話合い、実践に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、同一法人のグループホームとの交流も中止せざるを得ませんでしたが、機会があれば情報共有等をしていきたいと思っています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの入居者様の生活状況をふまえて、安心して過ごすことができるように、ご本人の声にしっかり耳を傾け、信頼関係を築くことができるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの入居者様の生活状況をふまえて、安心して過ごすことができるように、ご家族様の要望にしっかり耳を傾け、信頼関係を築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態や状況を把握し、それを職員間で共有し、ケアにつなげています。ご家族様には入所後のご本人の状況を詳細に連絡しています。また、その後のサービス導入についても柔軟に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に笑い、日々を楽しく暮らしていくことができるように、職員はご本人とのより良い人間関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様には、ご家族様と同じ思いで寄り添いながら、また、ご家族様と共に支えていくことができるような関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の生活歴とともに、これまで大切にしてきた場所や地域等との関わりを大事にして、その生活習慣を尊重するようにしています。	コロナ感染のため、親戚や友人・知人の面会はできなくなり、治まった後も制限されている。家族との面会でも十分な感染予防をしながら、玄関先の短い時間の面会とせざるを得なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事等の時間は職員が一緒に飲食をし、多くの会話で入居者様同士との関係が円満に行くように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性が無くなっても、相談や支援ができるように努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、または、生活習慣等からケアの方針を決め、入居者様本位の介護計画を作成しています。	最初のアセスメントをしてからも、利用者の様子や家族の情報などを基に、メモを取って「介護記録」に記録して、絶えずアセスメント行い、介護計画作成につなげている。利用者によっては、それぞれの思いがあるので、それを活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に事前面接をしたり、多方面のサービス提供している方からの情報を収集したりして、これまでの暮らしの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色や、食欲のあるなし、または排泄状況を見ながら、日々の会話やバイタルチェック通して、入居者様の心身の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開いてモニタリングを行い、それを元に見直し、ご本人やご家族様の要望を取り入れた介護計画書を作成しています。	利用者個別の「介護記録」のキーワード(見出し)を中心に、職員は毎日の生活の中でおおまかなモニタリングをしている。サービス担当者会議では、職員全員で評価し合い、介護計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別の「介護記録」を毎日記載し、朝礼などで勤務を交代する際には、必ず申し送りを行い、職員同士の情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの提供や緊急時の医療連携などを行い、柔軟な支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安全に地域で暮らしていくことができるように、地域の民生委員の方と意見交換をしながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を尊重し、往診またはご家族様による受診ができるように支援しています。そのため、かかりつけ医とは絶えず連絡し合い、良好な関係を築くようにしています。	かかりつけ医による月１回の往診があり、５回のワクチン接種も行ってきた。しかし、コロナ感染が広がったり、多くの利用者の看取りを行ってきたりして、かかりつけ医との連携を密にして取り組んできた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の個別のケースにより、必要であれば訪問看護などが受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や担当看護師、または相談員と綿密な連絡をとり、早期退院ができるように関係づくり行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いはもちろんのこと、職員間でもしっかり話し合いを持ち、重度化や終末期に向けた支援ができるようにしています。また、かかりつけ医との情報の共有に努めて、緊急時にすぐ対応できるようにしています。	入所時から、ターミナルケアを行い、家族の希望によって看取りができることを理解してもらってきた。この1年間に老衰による6人の利用者の看取りを行ってきた。職員は毎日の体位交換や食事提供、排泄介助を行うばかりでなく、エンゼルケア(清拭や死化粧など)を家族と一緒に行って、見送りをしてきた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習会があれば参加してもらうようにしています。また、コロナ感染の折には、法人内の職員派遣などを通して、的確な対応について話し合い、確認してきました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	５月には、職員の連絡網を使っての避難訓練などをしてきました。	５月に、１回目の職員の連絡網を使っての避難訓練を行ってきたが、コロナ禍のため１０月の避難訓練は中止になった。１月から３月の冬季には、重点的に火気点検を行ってきている。包括支援センターの職員と連携しながら、ハザードマップによる安全確認を行ってきた。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を人生の先輩として敬い、敬意を持って接するように心がけています。そして、入居様の誇りを大切にし、プライバシーの確保を重視しています。	利用者の尊厳を守るため、特に、プライバシーの確保を重視して、トイレ誘導には細心の言葉かけで行っている。職員と一緒に考え、一人の人間として尊重する態度を大切にし、共に笑い、楽しみ、悲しみ、生きることを目指してきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には、強いることがないように「どちらにしますか？」と言って、選択しやすい言葉かけを通して、ご本人から選んでいただけるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、入居者様には自分らしく、自分の時間を大切に過ごしていただけるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の着替えなどには、選択肢をつくり、ご本人に選んでいただけるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様個々の好みを把握し、それぞれに合った食事の提供を行うように支援しています。特に、季節の食材を取り入れることや行事食等に力を入れています。	コロナ禍のため、外出する喜びや楽しみが少なくなってきている。そこで、利用者と一緒に食事を作り、準備して楽しく会食するようにしている。季節や行事に合わせて、おせち料理を作ったり、五平餅を焼いたり、菜の花をおしたしにしたりして、一緒においしく食べるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、入居者様個々にあった食事提供ができるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防のため、毎食後の歯磨きや義歯の洗浄を行っています。必要があれば、歯科医と連携して、口腔内の清潔に努めるように支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄力を把握し、その人に合った排泄介助ができるように支援しています。	毎日排泄チェックを行い、タイミングを合わせてトイレ誘導を行っている。見守りだけの利用者は7人で、介助を必要とする利用者は2人と少ないが、布パンツだったり、リハビリパンツにパッドを使用したりしているので、それぞれの利用者の状態によって細心の対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけ、便秘の人にはマッサージなどを行っています。定期処方以外の服薬は控え、飲食物の工夫などで便秘解消の方法を探っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が楽しみの一つとなるよう、また、入りたい時に入れるように支援しています。	1日3回、1週間に2回は入浴できるように声かけをしている。入浴を嫌がる利用者には、タイミングを取って、入浴するように働きかけている。車椅子使用で全介助の利用者は1人いるが、他の利用者は見守りして、安全に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で寝られない時は居間で休んでいただいたり、その人に合った時間で休んだりすることができるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様個別に服用している薬のリストを作成し、職員全員が閲覧し、把握するようにして支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が食べたい物を言ったり、個々の趣味を活かしたりできるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナ対策のため外出は禁止としていますが、感染症が落ち着き、外出が可能になれば、支援していきたいと思っています。	コロナ感染のため、全然外出ができなかった時期があったが、これまでの外出とは異なった方法で、外出を行ってきた、車の中から紅葉狩りをしたり、近くの店に行って見学だけしたり、裏の畑で野菜を育てたりしてきた。駐車場に設置した椅子に座って外気浴をしたり、通りがかりの参拝者に挨拶したりして過ごすこともある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の中でお金が必要な方には、お金を持っていただいたり、自己管理をしていただいたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と連絡を取りたい方には電話を貸す等の支援しています。手紙の代筆をして支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節折々の花を飾って目で楽しんでいただいたりして、居心地良く過ごせるように工夫しています。	居間にこたつを置いたり、中央にストーブを置いたりして暖房に留意し、また、空気清浄機を設置して換気も十分行うようにしている。季節に合わせてお雛様を飾ったり、利用者の絵や写真を飾ったりして明るい雰囲気を出しすようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置したり、気の合った入居者様同士で話ができるように座る場所等を工夫したりして、支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様個々の生活歴を尊重し、馴染みのタンスやベッドを持ってきていただくなど、自宅の環境と変わらない空間づくりに留意しています。	それぞれの居室は広間に通じるようになっている。そして、それぞれの居室に目印をつけ、利用者が他の居室と混乱しないようにしている。コロナ禍のため、居室の換気に細心の注意を払っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の現行のレベルを維持していくため、歩行器などを使い、個別の状態や状況に合わせ、自立した生活が送れるように支援しています。また、廊下やトイレには手すりを設け、安全にも配慮しています。		